



①お腹の赤ちゃんや妊婦さんが温かく迎えられる町づくりを目指して



松岡みゆきの質問

- ①出産から子育て迄切れ目なく支援する「出産・子育てをしっかりサポート事業～ゆりかご・まちだ～」が4月から始まったが現状・内容は？
- ②妊婦さんに面接を行い、支援計画を立てて、サポートしているが、どのような課題があるか？市の少子化対策としての認識はどうか？
- ③お腹の赤ちゃんも社会の一員です。思いがけない妊娠で悩む女性や緊急下の母子を救う為の支援として「NPO法人生命尊重センター」の「妊娠SOSほっとラインカード」を設置しては？



保健所長の答え

- ①妊婦全員に保健士が30分面接し、子ども商品券1万円分を支給。対象は市内在住の妊婦。早期サポートの為、産婦人科、医療機関、妊娠届出時に渡すチラシで案内する。
- ②課題に応じ家庭訪問や母子保健サービス紹介
- ③市の基準で市庁舎での設置は困難。妊娠等の相談先はホームページで周知していく。

**市長の答え** 100%面接に来て頂ければ支援できるが、妊娠届をされない方に支援情報を届ける事が必要。特に若い世代が大事だと思います

②在宅みとりについて

松岡みゆきの質問

- ①在宅みとりとは、自宅で最期を迎える事。現在8割が病床での看取りだが、国民の55%は在宅みとりを希望。市の現状と課題は何か？
- ②2025年問題として、医療給付費増が想定。高齢化による医療増で市民負担増の現状だが、入院費・介護給付費・介護保険料の推移は？
- ③「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」では、在宅医療の充実が不可欠。高齢化に伴い地域包括ケアシステムの重要性と今後の対策は何か。



いきいき生活部長の答え

- ①市の在宅療養支援病院は6軒。診療所は29軒。在宅みとりは13.1%。在宅での医療と介護の連携が重要。
- ②市の75歳以上の入院費は2013年の約155億円から2015年の約176億円に増加。介護給付費は2015年約267億円。介護保険料は2015年約70億円と、どちらも毎年増加。
- ③「みんなで知ろう町田の医療と介護」をテーマとした初のイベントを開催します。

**保健所長の答え** 終末期に向け環境整備が必要。医師会・歯科医師会・薬剤師会等と協力する



町田市民文化祭に出展しました！

10月29日から11月3日まで、町田市民文化祭が市民ホールで開催されました。私、松岡みゆきも作品を出展し、文化の発展に貢献しています。市では毎年、春には町田市民美術展が、秋には町田市民文化祭が開催されます。

こちらが松岡みゆきの出展作品です！



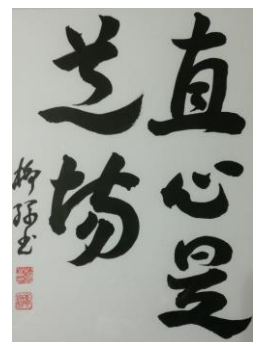
(左)松岡みゆき (右)華道の先生



人形(勝負太刀・市松) 木目込人形師範・人形文化連盟



プリザーブドフラワー インストラクター資格所持



書道(真心是道場) 書道五段・書道連盟